



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月2日

上場会社名 日本化成株式会社
コード番号 4007 URL <http://www.nkchemical.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 中村 英輔

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 関 信哉

TEL 03-5540-5861

四半期報告書提出予定日 平成24年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	14,837	△4.6	△139	—	5	△99.3	△40	—
24年3月期第2四半期	15,549	△17.2	669	△54.3	709	△50.3	335	△55.2

(注)包括利益 25年3月期第2四半期 △47百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 293百万円 (△59.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	△0.38	—
24年3月期第2四半期	3.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	自己資本	%
25年3月期第2四半期	33,842		11,258		11,258	33.3
24年3月期	34,560		11,515		11,515	33.3

(参考)自己資本 25年3月期第2四半期 11,258百万円 24年3月期 11,515百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,500	△4.3	750	32.7	1,000	3.8	420	12.9	4.00

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	105,115,800 株	24年3月期	105,115,800 株
25年3月期2Q	29,634 株	24年3月期	28,836 株
25年3月期2Q	105,086,850 株	24年3月期2Q	105,088,425 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

(説明資料) 平成25年3月期 第2四半期決算概要

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、復興関連需要等に支えられ、夏場頃まで緩やかな回復過程を辿りましたが、その後世界経済が減速傾向を強める中で、持ち直しの動きが一服するなど、景況感に変化が見られました。

このような状況の下、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、去る平成24年10月25日に「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」において発表いたしましたとおり、機能化学品事業の一部が需要低迷等により厳しい状況で推移しましたが、無機化学品事業の一部及びエンジニアリング事業が比較的堅調であったこと等から、売上高、営業利益、経常利益及び四半期純利益について、平成24年5月11日に発表した業績予想を修正いたしました。

こうした中で、売上高は、アンモニア系製品及びホルマリン、木材加工用接着剤については主要顧客の需要回復が逐次進展し、持ち直し傾向を辿りましたが、機能化学品事業の一部の需要が大幅に減少したこと等から、前年同期との比較では減収となりました。

一方、損益については、上記のとおり売上高が対前年同期比減収となる中で、震災による前期操業大幅低下に伴う繰越在庫の払出負担等一時的な要因、更には震災による損害に伴い前期特別損失に計上した工場固定費の本来売上原価への反映等があったことにより、前年同期との比較では減益となりました。

具体的には、当第2四半期連結累計期間の売上高は14,837百万円（前年同期比4.6%減）となりました。また、損益につきましては、営業損失139百万円（前年同期は営業利益669百万円）、経常利益5百万円（前年同期比99.3%減）となり、四半期純損益は、小名浜工場の硝酸・混酸製造設備の減損損失（314百万円）、固定資産売却益（81百万円）、補助金収入（66百万円）を計上したこと等から40百万円の損失（前年同期は四半期純利益335百万円）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

(無機化学品事業)

硝酸をはじめとするアンモニア系製品は、前年年末に概ね底を打った主要顧客の需要がその後順調に回復過程を辿ったこと等により、販売数量、売上高ともほぼ前年同期並みとなりました。合成石英粉は、前年年末に需要の減少が概ね底入れし、以後、逐次持ち直し過程を辿りましたが、堅調であった前年同期との比較では、販売数量、売上高とも減少しました。ディーゼル車脱硝用高品位尿素水（アドブルー）は、市場競争の激化による厳しい状況下、尿素SCRシステム搭載車の増加、拡販努力等により販売数量、売上高とも増加しました。

その結果、全体の売上高は6,842百万円（前年同期比3.6%減）となりました。

(機能化学品・化成品事業)

タイク（ゴム、プラスチック架橋助剤）は、緩やかな回復過程を辿っていた需要が夏場以降急減し、販売数量、売上高とも大幅に減少しました。電子工業用高純度薬品は、依然として厳しい状況が継続し、販売数量、売上高ともに震災の影響で大きく落ち込んだ前年同期並みとなりました。脂肪酸アמידは、夏場以降需要が低迷したものの、震災の影響で大きく落ち込んだ前年同期との比較では、販売数量、売上高とも増加しました。

メタノールは、販売数量は減少しましたが、市況の上昇により売上高は前年同期並みとなりました。ホルマリンは主要顧客の需要回復等により、木材加工用接着剤は主要顧客の震災復旧の進展等により、回復基調が継続したことから、大きく落ち込んだ前年同期との比較では、販売数量、売上高とも大幅に増加しました。

その結果、全体の売上高は5,867百万円（前年同期比1.8%増）となりました。

(エンジニアリング事業)

前期に受注した災害復旧案件の検収があったこと及びコスト削減努力等により、当初予想は上回ったものの、比較的好調であった前年同期との比較では、売上高は減少し1,447百万円（前年同期比25.1%減）となりました。

(その他)

貨物運送・荷役事業は、ほぼ前年同期並みで推移しましたが、有機溶剤等の蒸留・精製業の処理量減少等もあり、全体の売上高は602百万円（前年同期比10.8%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比し718百万円減少し、33,842百万円となりました。これは、主にたな卸資産等が増加したものの、売上債権及び有形固定資産等が減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比し461百万円減少し、22,584百万円となりました。これは、主に仕入債務及び有利子負債等が増加したものの、未払法人税等及び災害損失引当金等が減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比し257百万円減少し、11,258百万円となりました。これは、主に四半期純損失及び支払配当金等により利益剰余金が減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は33.3%（前連結会計年度末は33.3%）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、前述のとおり、機能化学品事業の一部が需要低迷等により厳しい状況で推移しましたが、無機化学品事業の一部及びエンジニアリング事業が比較的堅調であったこと等から、売上高、営業利益、経常利益及び四半期純利益について、平成24年5月11日に発表した業績予想を平成24年10月25日に修正いたしました。

一方、平成25年3月期の通期連結業績予想につきましては、欧州債務問題に中国経済の減速傾向といった新たな懸念要素が加わる等、第3四半期以降の経済諸情勢が一段と不透明さを強める中で、上記機能化学品事業の需要の更なる落ち込みが見込まれること、またこれまで比較的堅調であった無機化学品事業の一部についても先行き需要の停滞感が予想されること等から、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益について、平成24年5月11日に発表した業績予想数値を下回る見通しである旨、平成24年10月25日に発表いたしました。

当社グループは、昨年3月の大震災以降、小名浜工場の復旧、プラントの運転最適化、要員効率化、諸経費対応を始めとするコストの削減、販売拡大努力等に心血を注いで参りましたが、第3四半期以降は、改めて当社グループ挙げて事業全般に亘る収益改善施策をよりスピーディーかつ徹底的に推進し、確実な成果に繋げるべく全力を尽くして参ります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,519	1,320
受取手形及び売掛金	8,780	8,300
商品及び製品	2,994	3,084
仕掛品	381	1,190
原材料及び貯蔵品	1,385	1,378
その他	2,016	1,570
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	17,074	16,842
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,196	3,026
機械装置及び運搬具（純額）	2,750	2,308
土地	6,967	6,951
建設仮勘定	368	377
その他（純額）	151	147
有形固定資産合計	13,432	12,809
無形固定資産		
その他	50	47
無形固定資産合計	50	47
投資その他の資産		
その他	4,030	4,171
貸倒引当金	△26	△27
投資その他の資産合計	4,004	4,144
固定資産合計	17,486	17,000
資産合計	34,560	33,842

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,690	4,812
短期借入金	10,637	10,887
未払法人税等	178	34
賞与引当金	339	299
災害損失引当金	1,033	1,209
その他	1,863	1,568
流動負債合計	18,740	18,809
固定負債		
長期借入金	853	710
退職給付引当金	2,928	2,887
役員退職慰労引当金	96	63
災害損失引当金	312	—
その他	116	115
固定負債合計	4,305	3,775
負債合計	23,045	22,584
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593	6,593
利益剰余金	4,913	4,663
自己株式	△6	△6
株主資本合計	11,500	11,250
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15	8
その他の包括利益累計額合計	15	8
純資産合計	11,515	11,258
負債純資産合計	34,560	33,842

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	15,549	14,837
売上原価	12,249	12,473
売上総利益	3,300	2,364
販売費及び一般管理費	2,631	2,503
営業利益又は営業損失(△)	669	△139
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	88	106
持分法による投資利益	—	33
受取賃貸料	31	33
その他	82	65
営業外収益合計	202	237
営業外費用		
支払利息	58	57
持分法による投資損失	88	—
その他	16	36
営業外費用合計	162	93
経常利益	709	5
特別利益		
受取補償金	423	—
固定資産売却益	—	81
補助金収入	—	66
特別利益合計	423	147
特別損失		
災害による損失	519	—
減損損失	—	314
投資有価証券評価損	24	—
特別損失合計	543	314
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	589	△162
法人税、住民税及び事業税	11	26
法人税等調整額	294	△148
法人税等合計	305	△122
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	284	△40
少数株主損失(△)	△51	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	335	△40

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	284	△40
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	△7
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	9	△7
四半期包括利益	293	△47
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	344	△47
少数株主に係る四半期包括利益	△51	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	589	△162
減価償却費	741	603
固定資産売却損益(△は益)	—	△81
補助金収入	—	△66
減損損失	—	314
投資有価証券評価損益(△は益)	24	—
災害損失	519	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12	△40
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△5	△41
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△9	△33
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	△23	△0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
受取利息及び受取配当金	△89	△106
支払利息	58	57
持分法による投資損益(△は益)	88	△33
固定資産除却損	1	10
売上債権の増減額(△は増加)	2,082	480
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,358	△892
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△433	180
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,640	△11
その他の流動負債の増減額(△は減少)	335	△288
その他	△19	3
小計	849	△106
利息及び配当金の受取額	94	111
補助金の受取額	—	66
利息の支払額	△58	△57
災害損失の支払額	△739	△3
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△606	87
営業活動によるキャッシュ・フロー	△460	98
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△396	△289
有形固定資産の売却による収入	2	98
無形固定資産の取得による支出	△14	△9
投資有価証券の取得による支出	△1	△0
短期貸付金の純増減額(△は増加)	△90	0
長期前払費用の取得による支出	△8	—
その他	—	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△507	△194

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△282	210
長期借入金の返済による支出	△103	△103
自己株式の取得による支出	△1	△0
配当金の支払額	△210	△209
財務活動によるキャッシュ・フロー	△596	△102
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,563	△199
現金及び現金同等物の期首残高	3,468	1,519
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,905	1,320

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	7,099	5,762	1,933	14,794	675	15,469	80	15,549
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	4	90	94	126	220	△ 220	-
計	7,099	5,766	2,023	14,888	801	15,689	△ 140	15,549
セグメント利益 又は損失(△)	218	234	210	662	△ 79	583	86	669

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送・荷役事業、サービス関連業(熱供給業、有機溶剤等の蒸留・精製業、産業廃棄物処理関連業等)を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額

	金額(百万円)
電気及び蒸気の販売による損失(△)	△ 13
その他の調整額※1	169
全社費用※2	△ 70
合計	86

※1. その他の調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない全社資産に係るもの及び各報告セグメントに配分していない原価差額であります。

※2. 全社費用は、各報告セグメントに配賦した一般管理費の予定配賦額と実績発生額との差額及び報告セグメントに帰属しない一般管理費、研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	6,842	5,867	1,447	14,156	602	14,758	79	14,837
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	13	116	129	136	265	△ 265	-
計	6,842	5,880	1,563	14,285	738	15,023	△ 186	14,837
セグメント利益 又は損失(△)	87	6	91	184	16	200	△ 339	△ 139

(注)1. 「その他」の区分は、貨物運送・荷役事業、有機溶剤等の蒸留・精製業等であります。

当第2四半期連結累計期間において、「その他」に含まれている「貨物運送・荷役事業」の外部顧客への売上高は573百万円、セグメント利益は40百万円であり、「有機溶剤等の蒸留・精製業」の外部顧客への売上高は29百万円、セグメント損失は35百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額

	金額(百万円)
電気及び蒸気の販売による損失(△)	△ 12
その他の調整額※1	△ 260
全社費用※2	△ 67
合計	△ 339

※1. その他の調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない全社資産に係るもの及び各報告セグメントに配分していない原価差額であります。

※2. 全社費用は、各報告セグメントに配賦した一般管理費の予定配賦額と実績発生額との差額及び報告セグメントに帰属しない一般管理費、研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「無機化学品事業」において減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては314百万円であります。

平成25年3月期 第2四半期決算概要

日本化成株式会社

[単位:百万円]

1. 連結業績

	当第2四半期 連結累計期間 (H24.4.1- H24.9.30)	前年同四半期 連結累計期間 (H23.4.1- H23.9.30)	増減	
			金額	率
売上高	14,837	15,549	△ 712	-4.6%
営業利益	△ 139	669	△ 808	-
金融収支	49	31	18	※1
その他営業外	62	97	△ 35	※2
持分法損益	33	△ 88	121	※3
経常利益	5	709	△ 704	-99.3%
特別損益	△ 167	△ 120	△ 47	※4
税引前利益	△ 162	589	△ 751	-
四半期純利益	△ 40	335	△ 375	-
1株当り四半期純利益	△0円38銭	3円19銭		

※1金融収支の内訳

	H24/9	H23/9	差
受取配当金	106	88	+18

※2その他営業外差異主な内訳

	H24/9	H23/9	差
雇用調整助成金	-	37	△37
※3小名浜海陸運送	33	△88	+121

※4特別損益主な内訳

	当第2 四半期	前年同 四半期
受取補償金	-	423
固定資産売却益(注1)	81	-
災害による損失(注2)	-	△ 519
減損損失(注3)	△ 314	-
補助金収入	66	-
その他	-	△ 24
計	△ 167	△ 120

(注1) 子会社土地
(注2) 震災による操業停止期間中の固定費等
(注3) 小名浜工場硝酸・混酸製造設備

①セグメント別売上高(連結)

		当第2四半期 連結累計期間 (H24.4.1- H24.9.30)	前年同四半期 連結累計期間 (H23.4.1- H23.9.30)	増減
報告 セグメント	無機化学品	6,842	7,099	△ 257
	機能化学品・化成品	5,867	5,762	105
	エンジニアリング	1,447	1,933	△ 486
その他		602	675	△ 73
調整額		79	80	△ 1
計		14,837	15,549	△ 712

アモニア系製品は販売数量、売上高ともほぼ前年同期並みとなるも、無機材料は堅調であった前年同期との比較では、販売数量、売上高ともに減少したため対前年同期比減収

ホルマリン・木材加工用接着剤が主要顧客の需要回復あるいは震災復旧の進展等により販売数量、売上高とも増加した一方、タイク(ゴム・プラスチック架橋助剤)は夏場以降需要が急減し販売数量、売上高とも大幅減少となったため、全体としてほぼ前年同期並み

前期に受注した災害復旧案件の検収があったこと及びコスト削減努力等により、当初予想は上回ったものの、比較的好調であった前年同期との比較で減収

貨物運送・荷役事業は、ほぼ前年同期並みとなるも、有機溶剤等の蒸留・精製業の処理量減少等もあり、対前年同期比減収

上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコーポレート部門の売上高を調整額として表示

②セグメント別営業利益(連結)

		当第2四半期 連結累計期間 (H24.4.1- H24.9.30)	前年同四半期 連結累計期間 (H23.4.1- H23.9.30)	増減
報告 セグメント	無機化学品	87	218	△ 131
	機能化学品・化成品	6	234	△ 228
	エンジニアリング	91	210	△ 119
その他		16	△ 79	95
調整額		△ 339	86	△ 425
計		△ 139	669	△ 808

アモニア系製品は販売数量はほぼ前年同期並みとなるも、震災による損害に伴い前期特別損失に計上した工場固定費の売上原価への反映により、また、無機材料は販売数量減により、対前年同期比減益

ホルマリン・木材加工用接着剤等は販売数量増となるも、タイク(ゴム・プラスチック架橋助剤)の販売数量が大幅減となり、また、その他の機能化学品も含め震災による損害に伴い前期特別損失に計上した工場固定費の売上原価への反映により、対前年同期比減益

前期に受注した災害復旧案件の検収があったこと及びコスト削減努力等により、当初予想は上回ったものの、比較的好調であった前年同期との比較で減益

貨物運送・荷役事業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の売上高が対前年同期比減収となるも、産業廃棄物処理関連業から撤退したこと等もあり、対前年同期比増益

原価差額及び上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコーポレート部門の損益を調整額として表示(含みらいプロジェクト開発費用 H24第2Q △77 H23第2Q △75)

2. 連結比較貸借対照表

	当第2四半期 連結会計期間末 (H24.9.30)	前連結会計 年度末 (H24.3.31)	増減		当第2四半期 連結会計期間末 (H24.9.30)	前連結会計 年度末 (H24.3.31)	増減
たな卸資産	5,652	4,760	892	営業債務他 ※2	10,987	11,555	△ 568
営業債権他 ※1	9,870	10,795	△ 925	株主資本	11,250	11,500	△ 250
固定資産(有形・無形)	12,856	13,482	△ 626	その他の包括利益累計額	8	15	△ 7
投融資等	4,144	4,004	140				
資産合計	33,842	34,560	△ 718	負債・純資産合計	33,842	34,560	△ 718

(注) 自己資本=純資産-少数株主持分
D/Eレシオ=有利子負債/自己資本

自己資本	11,258	11,515	△ 257
自己資本比率	33.3%	33.3%	△0.0%
有利子負債	11,597	11,490	107
D/Eレシオ	1.03	1.00	0.03

※1 増減内訳: 売上債権 △480、流動資産その他等 △445

※2 増減内訳: 仕入債務 +122、未払法人税等 △144、災害損失引当金 △136、流動負債その他等 △410

3. 連結キャッシュ・フロー

(参考)

	当第2四半期 連結累計期間 (H24.4.1- H24.9.30)	前年同四半期連 結累計期間 (H23.4.1- H23.9.30)
営業活動によるCF	98	△460
投資活動によるCF	△194	△507
フリー・キャッシュ・フロー	△96	△967
財務活動によるCF	△102	△596
現金及び現金同等物に 係る換算額	△1	△0
現金及び現金同等物の 増減	△199	△1,563

減価償却費 603、売上債権減少 480、
税前利益 △162、たな卸資産の増加 △892、減損損失等 69
設備投資 △298、固定資産売却収入等 104
配当金の支払 △209、借入金の増加等 107

4. 連結通期業績予想(平成24年10月25日発表)

※特別損益(予想)の主な内訳

	25年3月期 予想	24年3月期 実績	増減	
			金額	率
売上高	31,500	32,905	△1,405	-4.3%
営業利益	750	565	185	32.7%
経常利益	1,000	963	37	3.8%
特別損益	△300	301	△601	
税前損益	700	1,264	△564	-44.6%
当期純利益	420	372	48	12.9%
1株当り当期純利益	4円00銭	3円54銭		
1株当り配当金(期末のみ)	2円	2円		

	25年3月期 予想	24年3月期 実績
固定資産売却益	81	-
補助金収入	66	-
受取補償金	-	423
債務免除益	-	288
災害による損失	-	△519
固定資産処分損	-	△68
減損損失	△314	△35
その他	△133	212
計	△300	301

①セグメント別売上高(連結)

		25年3月期 予想	24年3月期 実績	増減	
報告 セグ メント	無機化学品	14,100	13,175	925	アノエ7系製品の販売数量増等により増収
	機能化学品・化成品	11,400	11,558	△158	化成品関連は増収となるも、タウ(ゴム、プラスチック架橋助剤)及びその他機能化学品等の販売数量減により減収
	エンジニアリング	4,550	6,633	△2,083	震災復旧需要減等により減収
その他		1,300	1,376	△76	有機溶剤等の蒸留・精製業の処理量減少により減収
調整額		150	163	△13	上記セグメントに属さないコーポレート部門の売上高を調整額として表示
計		31,500	32,905	△1,405	

②セグメント別営業利益(連結)

		25年3月期 予想	24年3月期 実績	増減	
報告 セグ メント	無機化学品	600	△268	868	アノエ7系製品の販売数量増、ゴム用カーボンブラックの製造終了等により増益
	機能化学品・化成品	170	156	14	化成品関連は増益となるも、タウ(ゴム、プラスチック架橋助剤)及びその他機能化学品等の減益により、対前年同期並み
	エンジニアリング	150	666	△516	震災復旧需要減等に伴い減益
その他		20	△77	97	産業廃棄物処理関連業からの事業撤退等に伴い増益
調整額		△190	88	△278	上記セグメントに属さないコーポレート部門の損益を調整額として表示
計		750	565	185	